



取組の重点



滋賀県教育委員会 第Ⅲ期学び力向上滋賀プラン（3年目）

子ども一人ひとりの 「ワクワク」する学びへ




発達の段階を踏まえた 言語活動の充実

-  各教科等における用語の意味を正しく理解し、活用する。
-  自分の考えをまとめ、表現・記述する。

1人1台端末等の 効果的な活用

-  興味・関心や理解の状況に合わせて学習する。
-  互いの考えを共有する場面、まとめ、発表・表現する場面で活用する。

自分に合った**学び方**を 身に付ける指導の推進

-  目標を決めて計画を立てる。
-  時間や方法を工夫して学習を進める。
-  学び方を振り返って次の学習につなげる。

教育データを利活用することで、子ども一人ひとりの状況が的確に把握でき、適切な言葉かけやよりよい支援、評価につながります。

取組の重点



滋賀県教育委員会 第Ⅲ期学ぶ力向上滋賀プラン（3年目）

子ども一人ひとりの 「ワクワク」する学びへ



特に、県全体で力を合わせて重点的に取り組んでいきたい授業改善のポイントを示しています。

目指す子どもの学びの姿




発達の段階を踏まえた 言語活動の充実

-  各教科等における用語の意味を正しく理解し、活用する。
-  自分の考えをまとめ、表現・記述する。

1人1台端末等の 効果的な活用

-  興味・関心や理解の状況に合わせて学習する。
-  互いの考えを共有する場面、まとめ、発表・表現する場面で活用する。

自分に合った**学び方**を 身に付ける指導の推進

-  目標を決めて計画を立てる。
-  時間や方法を工夫して学習を進める。
-  学び方を振り返って次の学習につなげる。

教育データが様々な取組を下支えし、子どもへの支援や授業改善につながることを示しています。

教育データを利活用することで、子ども一人ひとりの状況が的確に把握でき、適切な言葉かけやよりよい支援、評価につながります。

発達の段階を踏まえた言語活動の充実

「各教科等における用語の意味を正しく理解し、活用すること」、「学んだことをもとに、自分の考えをまとめ、表現・記述すること」を意識した言語活動に取り組んでいきます。

言語活動とは

書く

(例) 実験の結果から考察する場面
→事実や根拠をもとに記述する

理科



読む

(例) 資料から情報を取り出す場面
→文章や図表・グラフから必要な情報を読み取る

社会



話す・聞く

(例) 人物の言動について話し合う場面
→自分の考えとその理由を伝える
自分の考えと比べながら聞く

道徳



用語の意味を正しく理解し、活用すること

用語の意味が理解できず、困っている子どもはいませんか？

国語

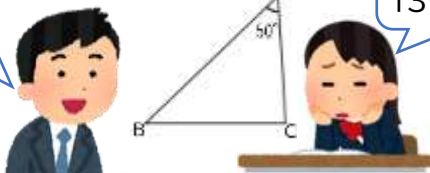
要旨を捉えてから、要約しましょう。



要約はしたことがあるけど、要旨って何？

数学

∠Aの外角を求めましょう。



310°かな？
130°かな？

○用語の意味を正しく理解できているか確かめる場面を設ける

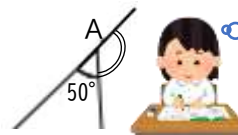
要旨とは、書き手が言い表そうとした内容や考えの中心となる情報でしたね。どんな言葉に着目したらよいでしょう？




考えの中心となる言葉は、繰り返し使われているなあ。



どこが外角か分かるように作図をして、外角を確かめましょう。



教科書に、が外角と書いてあるな。

○用語を使って説明したり、話し合ったりする場面を設ける



今日は、~~これを~~使って……
→メスシリンダーを使って液体の体積を測ります。

理科



※ 教師も用語を意識して使う。

発達の段階を踏まえた言語活動の充実

学んだことをもとに、自分の考えをまとめ、表現・記述すること

系統性を意識し発達の段階に応じて取り組む

それぞれの学年でどのような力を身に付ける必要があるのかを踏まえて、言語活動を行います。

例えば、「話し合うこと」に関する発達の段階のイメージは・・・

中学校	第3学年	進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、 合意形成に向けて考えを広げたり深めたり すること。
	第2学年	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、 結論を導くために考えをまとめる こと。
	第1学年	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を 結び付けて考えをまとめる こと。
小学校	高学年	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、 考えを広げたりまとめたり すること。
	中学年	目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の 共通点や相違点に着目して、考えをまとめる こと。
	低学年	互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて 話をつなぐ こと。

(学習指導要領 国語科の内容より)



幼児期	言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、 経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
-----	-----------	---

(幼稚園教育要領 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿より)

言語活動を充実させるためには

○言語活動で取り上げる対象を明確にする

算数・数学科であれば…理由・事柄・方法など
音楽科であれば…要素



ストーブの灯油を使いきるまでのおよその時間を予想しましょう。
式やグラフ※をもとに、予想する方法を考えましょう。

※1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてからx時間経過したときの灯油の残量をyLとする。

歌詞に合うように、**声の出し方や強弱を試しながら、見つけた表現の工夫を説明**しましょう。

音楽



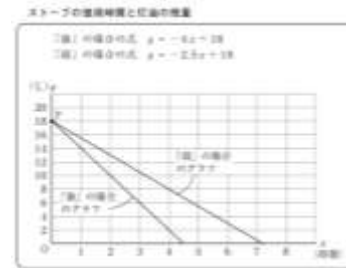
○一人ひとりが自分の考えをまとめ、表現・記述する時間を確保する

○他者との交流を通して、内容や、用いた語句・表現が適切かを吟味し、よりよいものにできるようにする

私は式からおよその時間を予想したけど、他の求め方はありますか。

グラフのyの値が0のところを見ると予想することができたよ。

yの値が0のところのxの値を見ればいいことを加えた方が説明がわかりやすいよ。



1人1台端末等の効果的な活用

各教科等のねらいを達成するために、学習の道具である1人1台端末等を効果的に活用し、学習活動のより一層の充実を図ります。

1人1台端末等を活用すると・・・

情報収集が短時間でできるため、その分、考える時間を十分に確保できる



クラウド上での共同編集やアイデアの共有を容易に行えるため、考えをより深めることができる



一人ひとりの興味・関心や理解の状況に合わせて学習に取り組むことができる



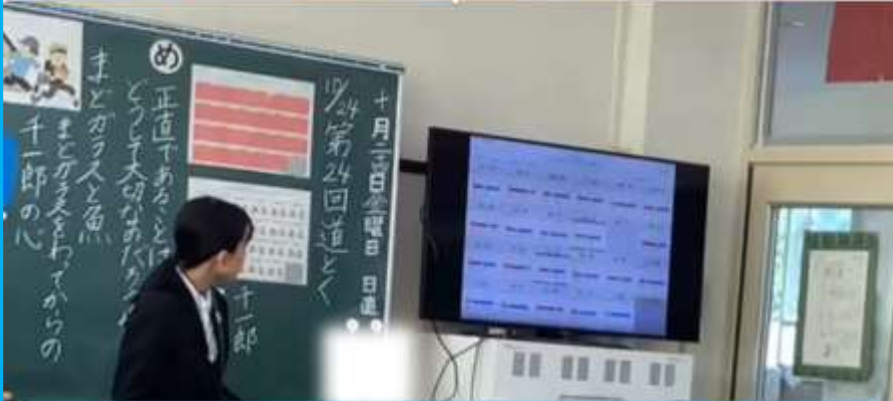
県教育委員会では、各教科等の授業で1人1台端末等を効果的に活用している県内の学校の取組を「しがグッドプラクティス（GP）」として紹介しています。



小 13道徳

ICTの効果的な活用

多様な意見が一目でわかる



- ・学級全員の意見が一目でわかる
- ・多様な意見に気付かせるための意図的指名が短時間で可能に

こんなことに困ったことはありませんか。

中心発問までに時間がかかりすぎて、児童の考えを一番深めたい場面に、時間がかけられなかった。



1人1台端末等を効果的に活用することで、中心発問ではねらいに迫るためにじっくりと考える時間を確保することができ、児童の思考を深めることができました。



1人1台端末等の効果的な活用場面

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた、県内の各学校における授業での活用例

【個別】 自分のペースで深める

○興味・関心や理解の状況に合わせて学習する場面



・個々の学習状況に応じてデジタルドリルを活用



・翻訳機能の利用

○目的に応じて情報を収集・整理する場面



・インターネットを使って情報収集



・情報の整理（図、表、グラフ、思考ツールなどを使用）

○振り返りにより学びを確認する場面



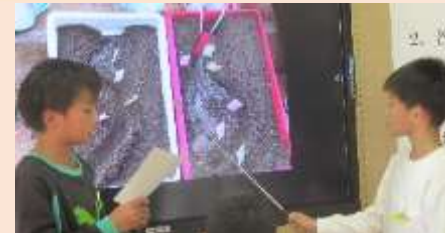
・振り返りの蓄積

【協働】 仲間と共に深め合う・高め合う

○自分の考えをまとめ、発表・表現する場面



・複数の意見や考えを分析、整理

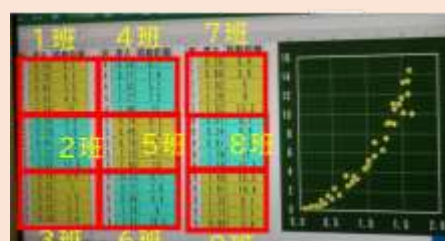


・根拠となる映像を用いて自分の考えを発表

○互いの考えを共有する場面



・友達と考えを共有、比較



・クラウド上で共同編集

【一斉】 クラス全体で共有

○学習課題を提示、説明する場面

○子どもの学習状況を把握する場面

○一人ひとりの考えを共有する場面



○オンラインで交流する場面



・学校外の施設にいる人々と交流

自分に合った「学び方」を身に付ける指導の推進

自分に合った学び方がわかると、子どもは「ワクワク」して学習に取り組むことができます。**学び方を身に付け、自分でできたという体験を積み重ねることにより学習意欲が高まるよう継続的に指導します。**

<学習を計画する>

学習の目的や内容、時間等を決め、環境や気持ちを整える

- ・学ぶ内容・目標・時間等を決める
- ・必要な道具や資料を準備する
- ・不要なものを片付ける
- ・前回までの内容を復習する 等

<学習を進める>

内容の理解や技能の習得に向けて取り組む

- ・何回も繰り返す
- ・知っていることと結び付ける
- ・情報を整理する 等

他の人と関わりながら、学習を進めていく

- ・分からないことを質問する
- ・学習の進め方を相談する
- ・他の人の様子を見て、真似する
- ・意見をもらう 等

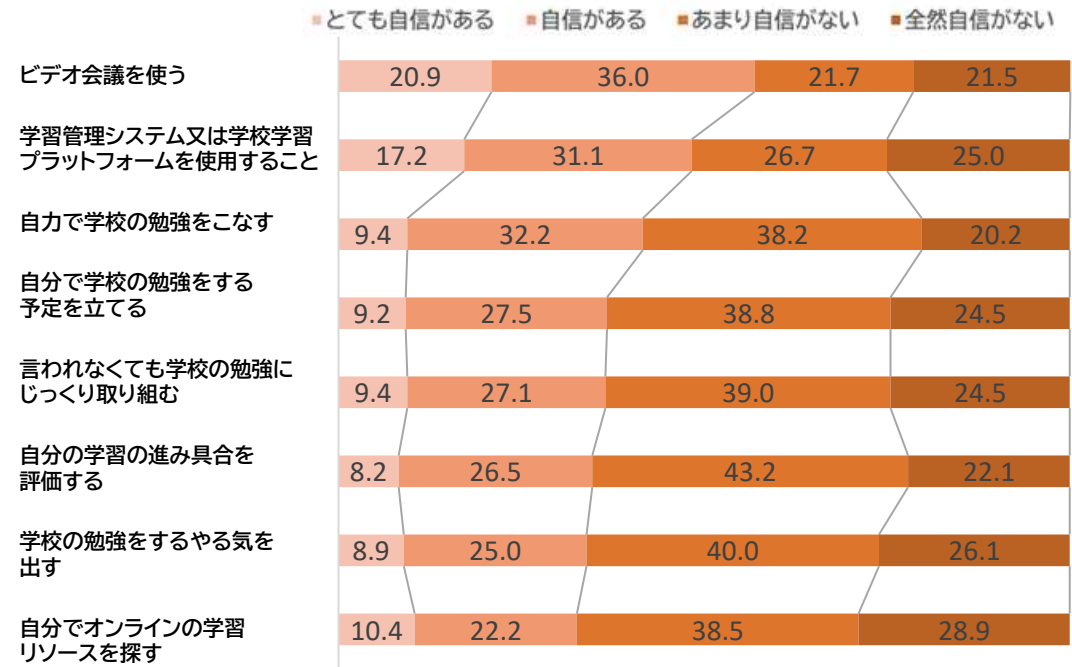
<学習を振り返る>

自分の進捗や達成度、学習方法等確かめる

- ・できたこととできなかったことを記録する
- ・うまくいった学び方や次にやってみたい学び方を考える
- ・次に取り組む内容を考える 等

今後、あなたの学校が再び休校した場合、以下のことを行う自信はどれほどありますか。

出典：文部科学省・国立教育政策研究所
「OECD生徒の学習到達度調査 PISA2022のポイント」より



上の8項目を指標化して比較するとOECD加盟37か国中、日本は34位



日本の子どもは**自律的に学ぶ自信がなく、自分で計画し、進め、振り返ることに課題がある**ことが分かります。

子どもたちが変化の激しい社会をたくましく生きていくことができるよう、自分に合った「学び方」を身に付ける指導の充実が求められます。

自分に合った「学び方」を身に付ける指導の推進

児童生徒の具体的な学び方

計画

必要な道具を準備しておく

できそうなところからやってみよう

例えば、自主学習の準備をする時間を設ける

他の人の学習内容や進め方も参考にしてみよう



前にやったことを確認しておこう

〇時〇分まではがんばろう

今日は△△と□□を勉強しよう

昨日間違えた問題をもう1度やってみよう

次はこういうふうに勉強してみよう

わからなかった部分は誰かに聞いてみよう

振り返り

実行

何回か声に出して読んでみよう

この言葉は大事だから線を引いておこう

こういうところに気を付けないと間違えるんだな

これと似ている問題はなかったかな

少し休憩してからもう一度がんばろう

この言葉は忘れないようにメモに書いて見えるところに貼っておこう

教科書やノートのどこに書いてあったかな

今日の自分はけっこうがんばったな

つながりがわかるようにまとめてみよう

他の人はどんなふうに行っているかな

例えば、振り返りの視点を明確に伝える

今日はこれだけできたな

誰かに見てもらおう

何に注目したら、その考えに気付くことができましたか

できたところとできなかったところをチェックしておこう

もっと知りたいから本や資料集で詳しく調べてみよう

例えば、教科の授業の中で学び方の例を指導する

間違いやすい箇所に、自分なりのコメントを考えて書いてみよう



教育データの利活用

従来からの教職員の観察や見取りに、教育データで可視化された情報を加えることで、**効果的な学級経営**や**きめ細かな個別指導・支援**につなげることができます。また、学校内の全ての教職員でデータを共有することで、**学校全体で児童生徒一人ひとりの状況を把握**し、**チームで支援**することが可能になります。

教職員の観察や見取り

○観察や見取りによる児童生徒の様子の把握



教育データで可視化された情報



○教育データをもとに児童生徒の状況を把握

心身の状況	学習の状況
・ 出欠や体調面の健康観察	・ 全国学力・学習状況調査、市町の学力調査
・ 心の健康観察	・ 学校や市町の児童生徒アンケート
・ 保健室の来室回数や来室時間帯等	・ デジタルドリルの利用ログやテスト結果

- ・ 苦手分野の克服やつまずきの解消に向けた個に応じた指導につなげることができる。
- ・ 複数のデータから児童生徒の心身の状態を早期に把握し、支援・対応することが可能になる。



効果の見られる学級における取組や指導を共有し、学校・学年での共通実践につなげていきましょう。



参考

・教育データの利活用に係る留意事項を紹介



文部科学省資料

https://www.mext.go.jp/content/20250328-mxt_syoto01-000028144_01.pdf

・効果的な教育データ利活用について紹介



文部科学省資料

https://www.mext.go.jp/content/20250220-mxt_syoto01_000040442_01.pdf

・S-P表の活用方法について紹介



文部科学省資料

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1409618.htm

教育データの利活用

管理職を中心とした校内組織を編成し、**データ分析や情報共有の機会を確保**するなど、**組織的・計画的な取組**を行うことが大切です。

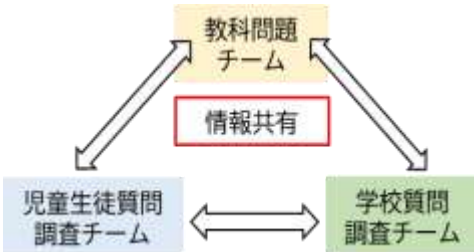


① データを用いた学力や学習状況等の分析

(例)

分析チームの編成

- 3つのチームに分け、それぞれで分析し、情報共有を行う



比べる

- ・昨年度と比較する
- ・全国と比較する
- ・目標値と比較する 等

強みや課題を見付ける

- ・昨年度から伸びているところ
- ・全国と大きな差があるところ 等



② 指導や授業改善に向けた方策の検討

データを根拠に考える

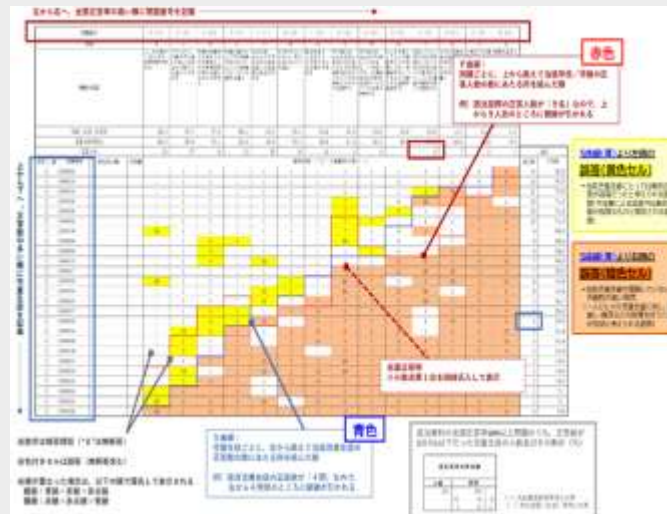
- ・前年度の指導や取組について振り返る
- ・これからの共通実践や授業改善について考える 等



分析資料の活用(全国学力・学習状況調査) 【S-P表(学校/学級別解答状況整理表)について】

S-P表とは、教科に関する調査結果を、学校や学級単位で、縦と横がそれぞれ児童生徒(Student)と設問(Problem)の正答数の多い順に並べ替えた表の中にS曲線(青)とP曲線(赤)を書き入れた表です。

S-P表の活用により、**学校や学級全体の課題の傾向**や、**個々の児童生徒が理解していない可能性が高い設問**を見付け出すことができます。



③ きめ細かな個別指導・支援

児童生徒一人ひとりへのフィードバック

- ・個々の強みや課題を把握し、共有する
- ・よりよい学び方について指導する
- ・授業中の丁寧な説明や必要な声かけにつなげる



第Ⅲ期学ぶ力向上滋賀プラン

3つの視点

◆ 計画期間 令和6年度（2024年度）～ 令和10年度（2028年度）【5年間】

1

子どもたちが主体の 授業づくり

子ども一人ひとりの学力や学習の状況を把握し、主体的・対話的で深い学びを通して、子どもが学びを実感できる授業づくりを推進します。

- ・基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る取組の充実
- ・「読み解く力」の視点を踏まえた、主体的・対話的で深い学びの実現

2

学びを支え合う 集団づくり

子どもたちが「安全・安心」を実感し、互いを認め合える集団づくりを推進します。

- ・生徒指導の実践上の視点を意識した集団づくり
- ・多様性を認め、思いやりの心を育む道德教育の推進
- ・地域に根ざした体験活動を通じた、豊かな人間性を育み人間関係を築く取組の充実

3

協働して取り組む 学校づくり

全ての教職員が、各校における「学ぶ力」向上に向けた課題や具体的な取組を共有し、学校全体で組織的に実践する取組を推進します。

- ・「学ぶ力」向上の取組を共通理解・共通実践できる体制づくり
- ・中学校区を単位とした取組の推進
- ・多様な学びの場と学校との連携の充実

